

## 【原子力ワンポイント】広く利用されている放射線

### (139) 放射線の健康影響—東京都民と福島県民で認識にズレ(その6)

前回の本コラムで予告しました通り今回は、第一章「福島の今を考える～理論編～」の本章でパネリストたちが「食べ物（作物）」・「環境」・「健康」・「福島第一原子力発電所の廃炉」をテーマとして、客席と双方向での設問に解答を交えながら「福島のイメージのアップデートをどうするか？」など、個人の思いを伝えていた様子、特にその中でも「食べ物（作物）」と「健康」に的を絞って詳しく内容を探ってみましょう。

**ゆりちゃん**：前回の序章と同様、本章でも開沼先生がファシリテータを務められたのですか？

**タクさん**：その通りです。先生は、「理論編の口火を切る」とおっしゃって、客席に向かい、「(放射性セシウム濃度が) 2017年に法定基準値を超えた米は全体の0.01%である。○か×か？」と質問されました。約1割の方が「○」と答えましたが「×」が正解でした。先生は、「福島県産の米は、毎年約1,000万袋、全量全袋検査しています。東京ドームを仮に米袋で敷き詰めると約200万袋で、これを5回転するという検査です。そして、それほどの量の米をすべて検査しても、2015年3月以降、基準値（放射性セシウムの基準値は100ベクレル/kg）を超えるものは『ゼロ』です。」と説明されました。

**ゆりちゃん**：開沼先生は、どうしてこんな質問をされたのですか？

**タクさん**：まず、図1を見て下さい。2018年2月3日の朝日新聞デジタル記事「福島米の『全量全袋検査』を知っていますか」より参照させて頂きました。福島県産の米の放射性セシウムの濃度は、開沼先生が説明されたように、現在は、検出できないほど低くなっていることがわかります。記事を要約すると、「福島県が実施した2017年9月のインターネット調査によると、関東地方に住む20～60歳代の男女約2,000人のうち、『毎年1,000万点以上の全量全数検査していることを全く知らなかった』という人が73%に達していました。2011年の事故当初には、放射性物質による食品への影響を案じ、検査しなくては安心して食べられないと結果を注視し、多くの人が情報を求めたことは忘れ去られてしまったのでしょうか。」というものになります。開沼先生は、このような状況をよく理解した上で、「福島県産の食べ物（作物）に対する『イメージをアップデートする』ためにはどうしたらいいか？」パネリストの方たちに聞いてみたかったのではないのでしょうか。

**ゆりちゃん**：開沼先生が、パネリストと意見交換された内容をもう少し具体的に教えて下さい。

**タクさん**：わたしは、越智先生との意見交換に興味をひかれましたね。開沼先生が最初、次のように問いかけました。「福島は、食文化が豊かで美味しいものが多い土地です。しかし、事故後、放射能というよくわからない『単語（数値）』が入ってきました。本来であれば、理系の専門家たちが知っていればよかったような『セシウム』とかの話におじいさんやおばあさんまで、付き合わなければならなくなりました。そのような混乱の中で米の全量全袋検査が始まりました。先に述べた通り、今では検知できない『安全なレベル』に戻っています。しかし、現実問題として食に抱く気持ちを考えると、(検知できないという)『科学的な事実』と『安心』との間に大きな乖離(かいり)が見られます。例えば、『自分は、福島県産といわれても気にせず食べる。しかし、人にも同じように勧めるかといえばちょっと躊躇する』という人が、かなりいるようです。」そして越智先生に、「このような現状をアップデートするためには、どうしたらよいと考えられますか？」と質問されました。

ゆりちゃん：越智先生は、どのように答えられたのですか？

タクさん：先生は、まず、客席に向かって次のような質問をしました。「福島県産の食べものが送られてきたときに、迷わず食べられますか？」また、「福島県産の食べ物を、小さなお子さんのいる家に迷わず『御裾分け（おすそわけ）』できますか？」2番目の質問に「×」をあげた方が1割ほどいました。それでは図2を見て下さい。三菱総研が2017年8月、東京都民の方たち（20歳～69歳の男女1000人）を対象にしてアンケート調査<sup>1</sup>した結果です。それを見ると、「自分が食べる場合には、『福島県産かどうかは気にしない』と答えた方が半数を超えていましたが、自分ではなく家族や友人、知人、外国人観光客に勧める場合はどうですか？と尋ねると、多くの方が、『放射線が気になるのでためらう』と答えていた」様子が伺えます。三菱総研は、「自分よりも他人が食べる場合の忌避（きひ）意識が高くなったという事実は、家族や知人への気遣いが含まれていることを示します。『家族や知人に勧めても問題ない』というレベルまで、理解を含める必要があるといえるでしょう。」と解説しています。越智先生も同じような気持ちだったと思います。「自分は食べるけれども、お子さんや人への勧めがなかなかできないという現状、これが悪いということか？なぜ自分はこんなことを考えちゃうのだろう？と悩む方がいるかもしれないがこれが現実」と語っていました。今回は、「健康」について内容を探ると同時に、パネルディスカッションの総括として「アップデートふくしま」声明を紹介します。

(原産協会・人材育成部)

図1. 福島県産米検査の状況  
朝日新聞デジタル記事(2018年2月3日)

<https://www.asahi.com/articles/SDI201802022341.html>

2018年1月10日 現在	検出下限値未 満(<258q/kg)	25～508q/kg	51～758q/kg	76～1008q/kg	基準値超過 (>1008q/kg)
2012年産	10323674	20357	1678	389	71
割合(%)	99.78	0.20	0.016	0.0038	0.0007
2013年産	10999224	6484	493	323	28
割合(%)	99.93	0.059	0.0045	0.0029	0.00025
2014年産	11013046	1910	12	2	2
割合(%)	99.98	0.02	0.0001	0.00002	0.00002
2015年産	10498055	647	17	1	0
割合(%)	99.99	0.01	0.0002	0.00001	0
2016年産	10265568	417	5	0	0
割合(%)	99.996	0.004	0.00005	0	0
2017年産	9637285	74	2	0	0
割合(%)	99.9989	0.0010	0.00006	0	0

<sup>1</sup> [https://www.mri.co.jp/opinion/column/trend/trend\\_20171114.html](https://www.mri.co.jp/opinion/column/trend/trend_20171114.html)

図2. 福島県産食品についての意識(東京都)  
三菱総合研究所 アンケート調査結果(2017年8月)

[https://www.mri.co.jp/opinion/column/trend/trend\\_20171114.html](https://www.mri.co.jp/opinion/column/trend/trend_20171114.html)

他県産と比較して品質や値段に変わりがない場合、以下のそれぞれの状況において  
福島県産の食品についてあなたの考えに最も近いものをお選びください

